



こやの里なまり

(第7号)

令和5年 10月 2日 (月)

兵庫県立こやの里特別支援学校

校長 石川 勝己

「できた」という自信を大切に

自立活動部長 土居 真美

2学期が始まり早いもので1か月が過ぎました。新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行となり、行事等がコロナ禍前と同様になりつつあり、児童生徒の活動が広がってきています。

さて、今年度より入学されてきた皆様には聞きなれない言葉かもしれませんが、本校のような特別支援学校や特別支援学級の学習には、国語・算数(数学)といった教科に加えて「自立活動」という取り組みがあります。自立活動は、子どもたちそれぞれの特性と関連する生活に即した事柄を学習課題として設定しており、その自立活動の指導には、以下のように大きく2つの場面があります。

① 授業時間 共通する課題を持つ子どもたちをグルーピングして行うもの
または、教科学習の中で一緒に指導されるもの

② 授業以外 日常生活、学校生活全般で個々に合わせた課題として必要な場面で継続的に指導されるもの
上記の場面で、体の動かし方の学習、手指の操作性の向上、気持ちを落ち着けて学習活動に参加できるための習慣形成、人への関わり方の学習、話し方・声の出し方の学習等を行っています。

また、本校では年に数回ですが、外部から作業療法士(子どもの体の動かし方、感覚の受け取り方、言葉の理解の仕方、人と物とのかかわり方を観察し、得意なことを引き出しながら、一人ひとりに合わせた支援を行う専門職)と言語聴覚士(言語や聴覚、音声、呼吸、摂食等において評価、訓練、指導、支援等を行う専門職)を招いて、事例相談や授業の進め方の研修などを行っています。それぞれの専門的な立場から見ていただくことで、課題が明確になり、具体的な作業や手立てなどアドバイスいただいています。

自立活動の取組は、特別支援教育においてとても大切な学習であると言われています。個々の特性に応じた学習課題であるからこそ、段階に応じて、子どもたちがわかるようにスモールステップで進めていきます。「できた」という自信は「またやろう」「もう少しやってみよう」という次のステップにつながります。できた時に子どもたちとともに喜び、その笑顔がたくさん見られるように取り組んでいきたいと思っています。

【兵庫県特別支援教育振興会(兵特振)会報について】

先日ご入会のご案内をした兵庫県特別支援教育振興会(兵特振)の会報第85号が公開されています。

以下のURLまたはQRコードから入ることができます。一度ご覧ください。

<https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/tokucen-bo/NC3/wysiwyg/file/download/1/1052>

